

(阿部発表分)

渋谷：2点あります。まず、スライド14, 15で述べられている、加工連の売上減少要因についてです。なぜ屠畜先が移ると売上が減少するのかがわかりません。それから税務署に目をつけられるとなぜ売上が減少するのかわかりません。

阿部：2点目に関しては、所得申告方式が標準表から収支決算表に変わったから、というのが理由ですが、この2つの表の関係はまだわかりません。(調査対象者に)言われたまま書きました。1点目についてですが、以前は田尻町から加工連に行って加工して、宮城生協に行くという形でしたが、(ある時点から)伊藤ハムの経路をとった方が田尻町にとって有利になりました。田尻町が以前に加工連で加工していた分量は、加工連の取り扱う分量の50%でした。それがなくなったので、加工連の売上は減少したわけです。

渋谷：減少した売上を他のところから手当てすることはできなかったんですか。

阿部：できませんでした。

渋谷：それからもう1点。スライド19で、宮城生協オンリーの体質改善をして販路を拡大しようということですが、これでは逆に売上が減少するんじゃないかと思います。自分のところが専売だから利益が上がっているのであって、販路を拡大して、宮城生協からの売上が減少したら売上増強にはなりませんよ。

阿部：JAもそういう販路拡大ということを目指しているのですが、今のJAはおそらく、宮城生協で買ってくれる以上の加工品を出荷するつもりなのだろうと思います。

渋谷：あと、スライド17についてです。宮城仙南が株主で、加工連が経営者で、これらに対立しているんですか？。

阿部：そこはうまく聞けませんでした。

木谷：地域活性化の地域範囲として、どれくらいをイメージしているんですか？仙南くらいですか？

阿部：角田市内をイメージしています。

木谷：でも、報告で出てくるのは宮城生協とかです。ようするに地域が外部に依存しているわけです。外部と取引して、地域の経済状況をよくするというのは不安定ですよ。内部でどれだけやりくりしているかということが地域活性化の指標になると思います。単に利益だけを指標とするんじゃなくて、そういう指標も大事です。それから、経済的活性化だけでなく社会的活性化というのもありますよね。そういう話が今回はなかったんですが、どういう考えですか？

阿部：1点目についてですが、グローバル化も進んでいることだし、地域内でやりくりするというのはすごく難しいことだと思います。

木谷：そういうことじゃなくて、問題はどれくらいの割合で外部に依存しているかということです。できるだけ依存度が少ない方が安定しますよ。そういうことを評価軸に入れる

べきだということです。

阿部：地域だけでやるということはすごく難しいことです。もちろん内部だけでやればベストなんですが。

木谷：伊藤ハムが入ってきたりするのはいいいんですか。

阿部：それでは地域活性化につながりません。

木谷：阿部君の持つ地域活性化のイメージがよくわからないんですが。

阿部：地域住民を巻き込むような活性化と、経済的な活性化を含むものをイメージしています。

伊藤（房）：ここで言う地域活性化というものがイメージできません。地域社会開発事業というのが報告で出てきますが、この言葉はよく使われているんですか？

阿部：総研の方が使っていた言葉です。

伊藤（房）：加工連が適切な事例なんでしょうか？加工連は加工販売に特化しているから、JAの組合員などをうまく取り込めるかどうかの問題です。それよりもJAが活性化の主体となっている事例はよくあるわけだから、そういう事例を扱っていくべきです。加工連の社長はJAの職員なんですか？単純に株主・社長の関係でいいんでしょうか。色々な経緯があると思いますよ。今後はそういう風にに分けて考えたほうがいいですね。

米倉：プレゼンは上手なんですが、ルポタージュのような印象を受けます。研究のテーマがよくわかりません。スライド17のようなことを、あなたが深く研究して、そのことについてメリット・デメリットを掘り下げたものを自分で示すべきだと思います。

長谷部：他の人たちのした肝心の質問になにも答えていませんね。何を研究したいのかが見えません。そこをつめてください。報告の最初では、地域活性化について事例を出して示そうと言ってますが、最後の方では、地域活性化って何だろうという話になってます。

「地域活性化の最初の定義が悪かった、だから直そう」ということならわかりますけどね。枠組みがないまま進めているんですよ。

阿部：地域開発事業というのは、地域活性化だけではなく、JAの活性化にもつながることです。今回はその2点を両方ともすることはできないので、JAの再生の道についてだけやったというわけです。しかし、地域活性化についてやはり明確にしていきたいと思います。

長谷部：加工連だけでなく、本体がどうかという議論も考えられます。枠組みがはっきりしていないので、もう少し整理してください。

2006年12月21日 定例研究会議事録

報告者：経営情報学分野 M1 鈴木秀一

議事録作成者：経営情報学分野 M2 市原通雄

質問者：関根

Q1：精密農法の種類の部分で土壌の解析と画像解析のイメージがつかないので説明してほしい

A1：土壌分析は土壌の状態を分析するもの。画像解析は稲のタンパク質の含有量によって色分けをして刈り取りの時期を分別するという仕組み。

Q2：土壌成分というのは、土壌データに加え、気象条件等も付加されるのか？

A2：土壌を10m四方に区切って、そのばらつきを均一にするものである。気象条件は付加されない

コメント：精密農法の関係モデルは、この他にも転作補助金の管理にも使えるのではないかと思う

質問者：田中(英)

Q2：精密農法とはどのような作目において利用されているのか？圃場で栽培される作目は異なっても精密農法は利用できるのか？

A1：その作目を収穫する機械があればどのような作目にでも使用できると思う。日本では米と小麦に用いられている。

Q2：機械を操作するために専門のオペレーターは必要なのか？

A2：技術的な面は不明だが、機械に関して難しい操作はないと思う。

Q3：精密農法は労働の省力化にはつながるのか？

A3：それはまだわからない

Q4：精密農法を導入するためにはかなりのコストがかかるが、そこまでコストをかけてプラスになるのか？

A4：導入の規模によると考えている

質問者：澁谷

Q1：報告にはGPSを利用するとなっているが、アメリカの打ち上げた人工衛星を利用していいのか？軍事目的で打ち上げられたものであるのなら意図的にその制度が操作されており、情報の制度が落ちるのではないか？

A1：それは不明

質問者：木谷

Q1：精密農法に関する水の問題をどのように考えるのか？アメリカでは水不足の問題が農業生産における問題になってくる。日本では水は豊富だが経営規模による問題で導入は難

しいと考えられる。問題の本質は農業生産に利用する水ではないか？

A1：・・・

コメント：つまり言いたいことは、どのような条件において精密農法を導入すればよいのか？精密機械に頼る農業よりも、農業自体の大切さを考えてみる必要があるのではないか？

Q2：日本では収量が増加すれば農産物の価格下落により農業収入はマイナスになるのでは？

A2：日本では収量増加を目的とするよりも、環境保全を目的とするほうが現実的

質問者：大村

コメント：タイトルは GIS を用いた精密農法に関する研究となっているが農業生産に関わる農業システムの研究ではないのか？各システムの統合を検証するという研究ならば精密農法導入の可能性は探れるが、それがどのような意味をもつのか？自分の研究したいことがいまいち不明確のような気がする。

質問者：米倉

Q1：いつ施肥するかなどを管理するなどのマイクロプライメントをコントロールするようなことはされているのか？またそれは出来るのか？

A1：そのようなことはされていないと思う

Q2：マイクロプライメントをコントロールできないのであれば、精密農法は意味がないのではないか？またこの農法の導入は日本の規模では不可能ではないか？

A1：検討してみる

質問者：大鎌

コメント：日本の農家特に篤農家は営農記録を長い年月をかけてとってきたのではないか？それを客観化されたデーターとして利用し、農業生産に活用してきたのではないか？そのようにして作成されたデーターを用いたほうが個別経営としてははるかに意味があると思う。

質問者：長谷部

コメント：農業に関する新規参入者が利用するというレベルの話なら意味があるのではないか？